

の当地域に及ぼす影響について考察した。当地域は伝統的産業の衰退とは逆に、昭和35年以降から急激に近代工業が進出し、一方別荘・住宅地としての開発もめざましいので、それらの要因と原状について考えてみた。また都市・工業化の影響によるものとして人口動態・地価の高騰・農業経営の変化をとりあげ、地域の変貌と今後の予想について考えてみた。

第5章 要約では次のようにまとめた。

本地域のさまざまな自然的特殊性は農業を阻害しているが、工業進出には種々の利点を備えていると言える。本地域の現在の姿は農山村から脱皮し、工業・住宅の町へと発展してゆく過渡期の状態にあり、さまざまな面で変化している。従って今後の発展は大きいものと思われる。

都市化・工業化に伴う浜松市の変容

松 本 園 子

第1章 概 説	第3章 都 市 圏
第2章 都 市 化	1 節 通 勤 圏
1 節 農業にみられる都市化	2 節 購 買 圏 ・ 利 用 圏
2 節 浜松市の地域構造	3 節 人 口 流 動 圏

第1章 概 説

浜松市の人口は現在40万人を越え、全国主要都市のうちで17位を占め、このうち都道府県庁の所在地を除くと、北九州・川崎・尼崎・堺に次ぎ、5位を占めている。上記の4市がわが国の四大工業地帯の一部として特別の地位を占めると認められるので、既成工業集積地帯以外の地域において、人口40万人を越える規模をもつ地方都市は、浜松市だけであるといえることができる。このような浜松市の発展は、当市が相当規模の工業的集積を持ち、又この工業的集積に伴う商業的機能・文化的機能を兼ね備えていることによるが、それに加えて東京・大阪の中間に位置するという地理的優位性が浜松市発展の最大の推進力となっていると思われる。

第2章 都 市 化

(1節) 農業にみられる都市化

兼業化率の増大、農業就業人口の減少、老令化・女性化へと質の低下、又作目の構成比においては麦類の著しい減少に反し、畜産・果実・高級野菜の急速な伸びが目立ち、以上の点から都市近郊

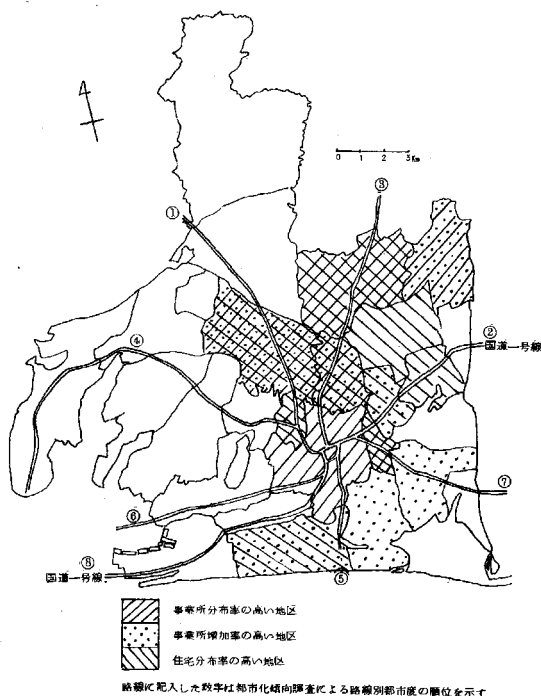
型農業となっている。しかし浜松市の場合、販路が浜松市だけでなく大都市、特に東京市場をねらっていることから、単なる都市近郊型農業でなく多分に地方特産地的性格も帯びている。

(2節) 浜松市の地域構造

都市化傾向調査による市内主要10路線の路線別都市度を基にして、住宅分布・事業所分布・産業別人口の地域構造・バスの運行頻度等を35年と比較することによりその変化をみた。住宅分布においては中央地区から周辺地区への移向が顕著であり、事業所分布においては実数にしてはまだわずかであるが、

増加率は南部地区が最高となっていることから、北部地区の住宅地化、南部地区の工業地化は今後とも大いに進むと思われる。

< 浜松市の地域構造 >



第3章 都市圏

人口流動圏においては県内では転出人口・転入人口とも年々増加はしているが、社会増人口は逆に減少している。しかしこれは交通事情の向上による通勤圏の拡大等により、浜松市からの転出人口増加によるものであり、実際には労働力の流出ではないと考えられる。又県外からの転入人口も年々増加し、同時にその地域も「広域化」の方向をたどって、40年には今まで転出超過地域であった近畿・大阪が転入超過地域にかわり、転出超過地域は東京・関東・名古屋の三地域だけとなった。